

令和2年度 第1回 瑞穂市老人福祉計画策定・推進委員会

- ・日時 令和2年8月25日（火）13：30～15：30
- ・会場 瑞穂市総合センター 2階 交流ルーム

審議の概要

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 委嘱状交付
- 4 自己紹介
- 5 会長及び副会長の選出
- 6 議事
 - (1) 計画策定に当たって
 - (2) 基礎調査結果からみる現状と課題について
 - (3) 計画の基本理念について
 - (4) 今後のスケジュールについて

議事

地域福祉高齢課長 開会宣言

○市長あいさつ

○委嘱状交付

市長より各委員席にて委嘱状の交付

○自己紹介

各委員、事務局員の自己紹介

○会長及び副会長の選出

会長：所委員 副会長：中村委員 挙手全員により承認

所会長 精を尽くしていきたいと思っておりますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。先ほどPCR検査について話がありました。2市1町の医師で構成されているもとす医師会では、9月第二週から各医師の診療所で、検査実施を認めた場合に限り、予約という形で検査を実施します。

中村副会長　　今まで、保健師・看護師として愛知県の現場で10年ほど就労してきました。健康福祉計画と行政計画に携わったことがあるので、今回も瑞穂市の現状と課題を踏まえ、どのような取組を行っていくかをみなさんと一緒に考えながら、瑞穂市のために計画を策定できればと思っています。よろしくお願いします。

○議事

事務局　　議事の進行は瑞穂市附属機関設置条例7条3項の定めに従い、所会長に議長をお願いすることになります。

所会長　　議案に入る前に本委員会の傍聴について、事務局から説明願います。

事務局　　本日は傍聴を希望する方はいません。

所会長　　では早速、本委員会の会議録について、事務局から説明願います。

事務局　　会議録の作成方法や確認方法について、3点確認させていただきます。1点目は、会議録の作成は要点筆記とさせていただきたいと思います。2点目は、発言した委員の氏名を議事録に記録させていただきたいと思います。3点目は、作成した会議録の確認方法について、会長、副会長の確認後に会議録として、HP等で公開させていただければと思います。これは、今年度策定します地域福祉計画と同様の方法ですので、今回の会議についても、同様の方法で作成させていただければと思いますが、お諮りをお願いいたします。

挙手全員により承認

所会長　　それでは、「計画策定にあたって」を議題としますので事務局より説明を願います。

事務局より説明

所会長　　ありがとうございました。策定の背景、計画の位置づけ、SDGsについて簡単に説明がありました。定義づけの部分となるので、あまり問題はないと思いますが、国は2025年、2040年の節目に対して、事前に準

備をしていく方針を取っています。何かご質問、ご意見等のある方はおられますでしょうか。

特に無いようですので、次に進みます。では次に「基礎調査結果からみる現状と課題について」事務局より説明を願います。

事務局より説明

所会長 ありがとうございます。何かご質問、ご意見等のある方はおられますでしょうか。

豊田委員 資料 P19 について、50 代、60 代による老々介護が増加してきている中で、市としてどのような取り組みを行うつもりでいるのかを知りたいです。また、数年前に、政府が介護離職者ゼロを目標に掲げたと思いますが、瑞穂市の介護離職者についての状況を分かる範囲で教えていただきたいと思います。

事務局 老々介護については、市としては適切な高齢者福祉サービスを提供できる体制を整えることが第一と考えています。日頃ちょっとしたことで困っているなど、サービスで行き届かない部分については地域包括ケアシステムの構築に向けて、話し合いを続けている段階です。

次に介護離職者の現状についてですが、市として介護資格取得に対する補助金制度など、積極的な PR が必要であると考えています。

豊田委員 市民が知りたいのは、アンケートを踏まえて市がどのように行動するかという部分です。市民が考えなければならない部分もあると思いますが、現段階では市としてアンケートをもとに何に取り組もうとしているのか見えてこない。そのため、何か取り組んでいることがあるなら教えて頂きたい。

また、介護離職の実態について、把握していないのか資料が手元になっただけなのか、どちらなのでしょう。

事務局 介護離職者については手元に数字がないため、説明できない状況です。

豊田委員 それなら、把握はされているということでしょうか。

事務局 保険者であるもとす広域連合で数値は把握できていると思いますの

で、瑞穂市内の数値についてもすぐに入手できます。

玉城委員 アンケートは第8期老人福祉計画を策定するために実施したアンケートですか。

事務局 そうです。

玉城委員 第6期の計画書のP5に「計画の策定と推進体制」という項目があり、PDCA サイクルの図が描かれているんですが、実際に計画通り取り組んできて、その結果がアンケートに表れていると思います。今回の計画で第1章「計画の策定と推進体制」の後ろに現行計画の評価が盛り込まれると良いのではないのでしょうか。

また、現行計画から今回にかけて市民の感覚がどのように変化してきているか施策ごとに4段階程度で評価をし、それに対して継続、拡充、新規施策を立てるとよいと思います。アンケート結果と今回の計画策定が連動していると、市民にも理解しやすいものになるのではないかと思います。

事務局 今回は資料として提出することはできませんが、次回の委員会の際には、施策に対しての進捗状況と課題について把握していますので、今後の骨子作成の際につなげていきたいと考えております。

所会長 3年間の結果を踏まえて、新しい計画を策定するということですね。

事務局 そうです。

小森委員 資料P22の今後在宅介護に必要と感じる支援サービスについて、団塊の世代、団塊ジュニア世代が増えてくる中で、今後は核家族世帯が増えてきます。そのため、見守りや声かけは、今まで以上に重要になってくると思います。これらを重点的に審議して頂ければと思っています。

また、各地域でふれあいサロンを実施していますが、私の地域でも参加された高齢者は大変喜んでいます。サロンについて、今後も重点的に推進していく必要があると考えています。特に新型コロナウイルス感染症が広がる中で、ふれあいサロンについても一時中止となりました。このような状況で、市や社会福祉協議会でも対応策を考えて頂きたい。

事務局 今後、これらの課題にも取り組んでいきたいと考えております。

飯沼委員 資料 P14 のあなたが知っている行政の取り組みについて、一番多い回答が「全て知らない」だったことに驚いています。今後は取り組みを市民に周知していくことも重要だと考えています。

山本委員 老人クラブの参加頻度について、アンケートの結果では、「参加していない」が 50%以上となっています。また、現行計画 P27 を見ると平成 30 年度から令和 2 年度にかけて減ってきています。これらのことから、老人クラブが衰退してきていると感じています。会員増加に向けて取り組んではいますが、結果につながってこない。団塊の世代にもあまり会員となってもらえず、団塊ジュニア世代にも興味を持ってもらえないとなると、一層老人クラブは衰退することになります。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、大きなイベント等が実施できない状況です。これらの状況に対する対応をしっかりと取って頂きたいと思います。今後も施設を借りられないなどの状況が続くと、会員の方には少人数で集まって頂くことになってしまう。計画策定の参考になればと思い、お話しさせていただきました。

事務局 老人クラブの会員減少については、瑞穂市だけでなく全国的にみられます。要因としては、役員になりたくない高齢者が一定数存在することが挙げられます。なので、いかに役員の負担を減らして楽しい老人クラブにしていくかを話し合いながら進めていこうと考えています。

所会長 高齢者が増えると、老人クラブに入る人数は増えるが運営も難しくなると思います。他に意見のある方はみえますか。

坂之上委員 今日の話聞きながら、自治会として何ができるのか考えていました。自治会にはこんなことをして欲しいと明確に伝えてくれれば、他の自治会長とも話し合うことができるかなと考えていました。

豊田委員 地域福祉高齢課が策定している地域福祉計画について、老人福祉計画と対象は似ていると思います。二つの計画の情報の整合を合わせるともっと良いのではないかと思います。

私は生活支援ボランティア「ちょっとつながり隊」という団体で活動していますが、資料 P12 の地域住民の有志で健康づくり活動に参加指定

かどうかという質問について、結果では活動したい人が多くいるが、実際には活動者は増えてきません。別の資料ではボランティアに取り組みたい人も多くいることから、そのあたりをうまく連動させれば、こちらとしてももっとお手伝いができるのではないかと考えています。

私が接している範囲の高齢者の方は、草刈りや窓ふきなどちょっとした掃除などのお手伝いが多い。そして、実際に家に行くと高齢者の方はしゃべることを楽しみにしている。データをベースにして、生活支援ボランティア活動団体や社会福祉協議会と密接に連携していけたら、より地域に密着した取り組みができるのではないかと考えています。

事務局 豊田委員の言われる通り、老人福祉計画の上位計画にあたる地域福祉計画の策定も同じ今年度となっているため、整合を図りながら細かい部分を老人福祉計画で定めていく方向で考えていますので、矛盾が無いように今後も進めていきたいと考えています。

所会長 意見はまだ尽きないとは思いますが、総括的な意見を飯沼委員にお願いしたいと思っています。

飯沼委員 前期の計画を評価して課題を踏まえたうえで今季の計画を策定していくと思いますので、今回の調査結果が十分反映された計画づくりに重点をおいていただければと思います。

中村委員 今回ニーズ調査のアンケートを実施したということですが、この調査は厚生労働省が項目を作り、全国一律で三年に一度実施するものです。私も他市町の老人福祉計画の策定に関わった際に、PDCA サイクルについて理解はしていても、実行に移すのは難しいと思いました。次につながる計画を策定するために、評価をもとにどのような取り組みを行えばいいのか考えることは、とても重要なことだと思っています。

私は研究の中で、評価方法について研究を続けてきました。その研究についてですが、当日資料として配布させていただきました。これは JAGES と呼んで、日本の研究者が有志で集まり研究データを使いながら、高齢者の健康を評価しています。また、こういった取り組みを行う必要があるのかを政策提言しています。今回は JAGES で研究された一部をご説明できればと思っています。

まず、高齢者の社会参加を活発にする必要があると意見が出ていましたが、研究でもその通りであると裏付けがされています。要介護認定と

書かれている研究成果をご覧ください。資料 P9 からの会・グループの参加頻度について、いずれにも参加していない人は要介護認定を受ける割合が高く、3種類以上の会・グループに参加している人は要介護認定を受ける割合が半減している事が分かりました。要するに、社会参加が多ければ多いほど要介護認定を受けない確率が高くなっています。

認知症についての研究成果では、先ほど近所とのつながりの話が出ましたが、その通りであり、つながりと健康が密接に関係していることが分かっています。配偶者や家族のサポートを受けたり、地域の行事に参加している人を5点満点とした時、5点満点の人ほど認知症リスクを抑えられています。資料 P15 以降のリスク判定と照らし合わせて、認知症になる人を減らす取り組みを考える際に、社会参加が重要な項目となっています。

厚生労働省は一般介護予防という社会参加ができる仕組みづくりに政策転換してきています。瑞穂市第7期老人福祉計画でも、社会参加ができるような取り組みを打ち出しています。それを踏まえて、どれだけ瑞穂市民の方に影響があったかを追跡調査することで効果が見えると思います。ただ追跡調査には時間がかかるため、同じ人を9年間追跡調査できる仕組みを作る必要があることを委員の方に理解してもらい、評価に向けて行動していくことが重要ではないかと思っています。

JAGES では、今後厚生労働省に高齢者の社会参加が重要であることを提言しながら、通いの場を増やしていくことに努めます。今まで厚生労働省は高齢者だけが参加する会や、サロンのような同じ趣味を持った人が集まる会など、行政が音頭をとり、取り組んでいく方法が重要だと言っていました。これらの会には限界があり、参加率の高い市町でも3割程度です。では残りの7割、特に男性はどこにいるかという、民間が運営しているフィットネスクラブなど、いわゆる広義の通いの場を利用していることが多くなってきています。こうした人たちを行政側から、「継続して欲しい」と応援することで、行政の力を借りなくても問題のない市町になるのではないかと思います。現在は厚生労働省も広義の通いの場を推奨しています。瑞穂市としても、様々な計画との整合性を図り、社会参加の場を作ることは達成しているため、今回の計画では、住民の方に通いの場に通うことが健康に良いのだと周知をすることが重要ではないかと考えています。

そこで、繰り返しになりますが瑞穂市としては、通いの場への参加を促した結果、どの程度参加率が上昇したのか、参加率の上昇に伴い健康状態はどの程度改善されたかを追跡調査することが必要だと思っています。

最終的には生活が充実していると感じる、幸福度の向上につなげることが重要です。ニーズ調査では幸福度を測る項目があります。0から10の11段階で、数字が高いほど幸福であると回答していることとなりますが、この点数を上げていくことが、計画策定の上で重要な指標となります。瑞穂市でも幸福度に注目して、具体的に取り組んでいく必要があります。日本人は5点と回答することが多いため、8点と答えている高齢者の多い他市町と比較することで、瑞穂市の現状を俯瞰的にみることができると思います。

会やサークルで役員をやっている人ほど健康であり、サロンに通っている人ほど社会参加に関する情報を手にする機会が多いことが分かっています。広報誌で情報提供することも大事ですが、通いの場を増やすことで情報が広まり、困ったときに助けてと言える市を目指せばよいと思います。通いの場を増やすことであらゆる指標が良くなることも分かっているので、委員の方とも通いの場の増やし方について話し合いをしていければと思っています。

所会長

大変参考になりました。話を聞いていて、通いの場によく参加している人は、要介護認定を受けることもなく、認知症にもなりにくいことが分かりました。また、多くの男性は独自で自分に興味のあることをしているということで、こうした人をどうやって地域のボランティアなどに引き込むかが大きな課題であると感じました。これらの課題も事務局として考えて頂ければと思います。人材が高齢化していく中でいかに元気な市民を引き込んでいくか考えてもらいたいです。

それでは、次の議題である計画の基本理念に進みたいと思います。

事務局より説明

所会長

計画の基本理念について説明がありました。国の方針に沿って策定されるものであるため、意見も少ないかと思いますが、質問や意見等ある方はおりますでしょうか。意見は特に無いようですので、今後のスケジュールについて事務局より説明願います。

事務局より説明

所会長

議題は以上となります。全体を通しての質問や意見も無いようですので、進行を事務局にお返しします。

事務局

本日の意見をもとに、骨子の作成に入らせていただきます。第2回の開催は10月を予定しておりますので、日時が確定しましたら早めにお伝えします。これにて、第1回瑞穂市老人福祉計画策定・推進委員会を閉会いたします。